

公明党議員団視察報告書

2019年8月19日

貝塚市議会議員 真利一朗殿

参加者 北尾 修
中山 敏数
谷口美保子

■視察 1日目

新潟県見附市

日時 令和元年8月8日(木) 午後2時～4時

場所 見附市役所 会議室

1、面談者 見附市 企画調整課 総合戦略室 夫馬 英之 副主幹
市議会事務局 多田 淳美 主任

2、視察事項「スマートウェルネス」みつけ について

最初に見附市議会総務文教委員会委員長 佐野 勇議員より歓迎のご挨拶と見附市についてのご紹介をして頂きました。見附市は新潟県の20ある市の中で一番面積が小さい等のお話の後、ご公務の為、退席されました。

【事業概要】

見附市の健康施策として『健幸』と『地域再生』を結び付け、住みたい 行きたい、帰りたい やさしい絆のまち みつけという、まちづくりに繋げていく事業として拡大し続けています。

◎超少子高齢化が進み、人口減少社会が見附市にも到来し、社会保障費の負担額が増えたことから、**健康施策の推進が必要**となる。

◎いきいき健康づくりの4本柱をたてる

- ・食生活 (食がいかにか大切に知っているまちプロジェクト)
- ・運動 (健康運動教室の開催)
- ・生きがい (市民グループ「悠々ライフ」が中高年の仲間づくり、生きがい探しを応援)
- ・健(検)診 (健康の駅、小児生活習慣病予防事業)

これまでの取り組みの結果として全国平均、県平均よりも低い介護認定率を保っている。

しかし、健康運動教室参加者の頭打ちの現状もある。その問題点対策として

- ① 興味を示さない住民に対する効果的な動機付け (動機付け対策)
- ② 継続参加者に対する支援策の充実 (継続意欲対策)
- ③ 健康維持は社会的な貢献であることの理解 (健康意識の変革)

今の事業効果が限定的！より多くの住民を健康にするために市民参加の底上げ技術

☆健康ポイントの導入

☆タニタのシステムの導入

☆「マイ・ライフ・ノート」の作成

★多種多様な施設の充実

- * みつけ健幸の湯 ほっとぴあ < 色々なお風呂を完備、健幸食堂も充実
- * 道の駅パティオにいがた < 農家レストラン、デイキャンプ場、レンタサイクル
- * みつけイングリッシュガーデン < 市民ボランティアが支える庭
- * 市民交流センター ネーブルみつけ < 様々な人が利用する交流の拠点施設

【事業の目指すもの】

大きな視点から

健康とは・・・**個人が健康、かつ、生きがいを持ち、安全安心に豊かな生活を営むことが出来ること**

スマートウェルネスみつけの推進・・・これまでの健康施策 4本柱+まちづくり全体の要素

- ① 健康になれるまち（道路、公園、景観、交通）
- ② 地域が元気なまち（経済活動、産業育成、交流）
- ③ 環境に優しいまち（ごみの減量化、新・省エネルギー）
- ④ 健幸を理解し行動（教育、啓発）

～そしてこの施策を進める7つのポイント～

- ① **社会参加（外出）できる場づくり**
- ② **中心市街地を中核とした賑わいづくり**
- ③ **歩きたくなる快適な歩行空間の整備**
- ④ **特徴的な取組み 地域コミュニティの構築と協働のまちづくり**
- ⑤ **過度な車依存の脱却を可能とする公共交通の再整備**
- ⑥ **まちをゾーニング**
- ⑦ **スマートウェルネス推進の鍵は人材**

【感想とまとめ】最後に人材という点で「健幸アンバサダー」健康情報の伝道師として476名を養成・また一人一人に合った運動やスポーツを紹介する「健幸コンシェルジュ」も20人在籍しているとの事でした。市役所の中での縦割りではなく色々な課をまたぎ総合戦略室としての施策は大変参考になりました。

貝塚市としても、少子高齢化、介護を必要とする高齢者の増加、医療費の増大の対策として、取り入れられることは大変多くあったと思います。

一人一人が健康に幸せに暮らせる社会、健幸に対する考え方を市民と共に考えられる貝塚市を目指したいと考えます。

健康都市宣言を掲げている本市として、これからスマートウェルネスみつけを参考にし、色々な施策強化に取り組んで参ります。

■視察 2日目

新潟県柏崎市

日時 令和元年8月9日(金) 午前10時～12時

場所 柏崎市 元気館にて

- 1、面談者 柏崎市福祉保健部 こころの相談支援課 小林 東課長(臨床心理士)
同 ひきこもり支援センター 中村 正彦主幹
- 2、視察事項 ひきこもり支援センター「アマ・テラス」について

【1.事業概要】

柏崎市ひきこもり支援センターは、平成30年度、自治体としては全国でも珍しく直営で設置されたもので、対象年齢はおおむね15歳～60歳の方を対象とされています。

○アマ・テラスの由来

- ・相談者の未来をあまねく照らす
- ・将来が見通せないどんよりした雨模様を照らす
- ・日当たりの良いテラスに家族が集う暖かな場所を提供する
- ・問題解決に向けた道案内的な役割の「法テラス」と重ね合わせる

(職員体制)

当初、正規職員3名、非常勤相談員(臨床心理士)1名で開始。平成31(2019)年2月よりは相談員1名を増員されました。

(周知活動)

- ・市HP広報による周知
- ・関係機関へのリーフレットの配布
- ・医療機関待合室にポスター掲示
- ・各地区協議会等での周知
- ・ひきこもり支援協議会(2回/年)の開催

(スーパーアドバイザー)

新潟青陵大学 斎藤まさこ教授による助言・講演会

(令和元年度2019年の取組み)

- ・市HPの専用フォームからメールによる相談申し込み
- ・支援計画の作成、モニタリングの実施(1回/半年)
- ・コミュニティー放送「FMピッカア」による周知放送(1回/週)
- ・親(家族)の会 1～2名程度の居場所作り(1回/週)
- ・包括支援センター(7カ所)、ケアマネージャー等のアウトリーチとの連携

【2. 事業の効果】

平成 30 年度の利用は 41 名で、柏崎市の人口からみれば、まだまだこれからという数字である。今後、市民への周知、ひきこもりについて相談するという理解について引き続き伝えていかなければならないと思われる。但し、支援を通して当市における当事者及びその家族の実態がみえてきている。

◇平成 30 年度実績

利用者人数	計 41 人(男性 26 人、女性 15 人)【令和元年(2019 年)5 月末 47 人:男性 29 人 女性 18 人】				
当事者の 年齢構成	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代
	8 人	15 人(新規 4 人)	9 人(新規 2 人)	6 人	3 人
相談内容	① 当事者を含めた家族:18 人 ②家族(保護者・親族含む):22 人 ③視線者:1 人				

(傾向)

1. 外出が可能な“ひきこもり傾向”“ニート傾向”の利用者が大半を占める。
2. ひきこもり状態となった時期は、25 歳未満が約 78%を占め、不登校や就労時のつまずきが要因となっている。
3. 親の主訴は「将来的な不安が」多い。当事者自身は、現状に対する罪悪感、社会に対する無価値感を抱き、対人恐怖症状等の二次的な症状にある。回復のルートに乗るまでの期間が長く、長期にわたる継続的支援と同行等のアウトリーチを要する。
4. 年齢層や状態像が幅広いため、関係機関との協働による多様な支援を要する。

(困難なケース)

1. 本人への直接支援（介入）が出来ない事例
ひきこもり状況が長期化している場合が多く、親の心理的負担が大きい。保護者との相談関係を維持し家族内の関係調整を図りつつ、親の会などによるピアカウンセリングが必要である。
2. 家庭内暴力のある事例
当事者からの家庭内暴力・言動により相談者である家族が精神的に支配され、警察や関係機関の介入を拒んでいた事例。
3. 多問題を抱える家族におけるひきこもり事例
親の病気や介護、経済的問題など多様な支援を要するが、キーパーソンが不在である事例。8050 問題状態の事例が多く、ひきこもり支援は高齢者支援や福祉的支援との連携が必須である。

【3. 今後の課題】

1. 実態調査を行う場合、手段、どの程度の内容、その効果など十分な検討が必要。
2. 当センターを含め、一カ所ですべての支援が賄われるものではない。ひきこもり状態から掘り起こし、繋ぐ、見守り、その後のフォローできるシステム作りが必要。

3. 上記を含め、当市は引きこもりについて支援機関の連携の構築、親の会や居場所が十分とは言えないところがある。これらの整備が必要である。
4. ひきこもりについて市民への周知を根気よく実施していく必要がある。特に、家庭でひきこもり状態が一応の安定状態になると、ひきこもり状態を否定したり、相談を敬遠したりする様子がある。また事件等により、ひきこもりについて誤った認識が社会に流布しないようにしなければならない。

以上、視察概要を報告させていただきましたが、まだまだひきこもりが潜伏している家庭が多数おられると思います。その方々をいかに相談に結び付けていくかが、大変重要なことだと思います。

当センターにおいては特定健診未受診者の中にもひきこもり家族がいる可能性があるとして、訪問等をされているとの報告もありました。

このように、相談へのきっかけ作りのために市民への周知を根気強くすることが最重要になると思います。

貝塚市においても、今回の視察を契機に市民への周知方法、相談体制等について今一度内容を精査し、ひきこもり対策強化に取り組んで参ります。



「元気館」入り口のモニュメント



説明を受けている様子